

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700555		
法人名	特定非営利活動法人 松沢の郷		
事業所名	松沢の郷 グループホーム松寿苑		
所在地	上川郡清水町字熊牛11番地		
自己評価作成日	平成29年10月3日	評価結果市町村受理日	平成29年10月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194700555-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194700555-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム松寿苑は(平成28年4月の開設以来)次の理念を掲げ、その実践に力を入れています。  
 ①私たちは地域の皆様との交流を通し、安心して生活できる(地域)社会を築いて行きます。  
 ②私たちは暖かく清潔な環境の中で利用者個々の尊厳を大切に支援して行きます。  
 ③私たちは思いやりをもち、笑顔絶やさず明るく見守って行きます。  
 この理念のもと利用者本位の介護サービス、すなわち、利用者とともに生活を送り一人ひとりの思いが実現でき、充実した生活ができるよう、日々支援を行っています。そして、単なる職員と利用者との関係ではなく、みんなで一つの家族として生活を共にするよう心掛け、実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清水町熊牛地区の廃校になった小学校跡地に小規模多機能事業所に併設された開設2年目を迎える特定非営利活動法人(NPO法人)松沢の郷が運営する木造平屋建て1ユニット(定員:9名)のグループホームです。  
 一人ひとりのその日の希望に沿って、回転寿しやレストランでの外食など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、日帰り温泉入浴やお菓子工場見物、大型ショッピングセンターでの買い物など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、出かけられるように支援している。  
 町内会の行事や老人クラブ行事への参加、芸能や文化サークル等のボランティア団体の協力を得たり、行政と連携して独居老人宅の見守りや困難事例への対応など事業所の持つ機能を地域に還元すると共に認知症に対する理解や啓発の為に地域の人々との交流に努めている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらい 3 職員の1/3くらい 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらい 3 家族等の1/3くらい 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場内に理念を掲示、思いやりの心をもって介護にあたっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、全体会議やケア会議、日常業務を通じてその理念を職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域町内会や老人クラブ、ボランティア団体(しらかばの会ほか)との交流をもっている。町内外の芸能・文化サークルの慰問の受け入れなど、地域との強い繋がりができてきている。	芸能や文化サークル等のボランティア団体の協力を得たり、行政と連携して独居老人宅の見守りや困難事例への対応など認知症に対する理解や啓発の為に地域の人々との交流に努めている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険事業ばかりでなく、役場と連携し地域独居老人宅等の声掛け、見守り事業を実施するなど、地域から大きな信頼を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催、事業計画の推進状況の報告、さらに、利用者等に関するアドバイスをもらいながらサービス向上に努めている。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の計画や事業報告、地域の実情など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町及び包括支援センターとの連携をより一層強化した中で、利用者の状況を共有した中でサービスの向上に努めている。	独居高齢者の安否確認を行う「高齢者見守り安心事業」を町から受託しており、地域のニーズや困難事例等の情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は開設以来全く無しで実践している。職員会議や職員研修で拘束排除を常に確認している。施錠もできる限り開錠に努め、訪問者も含め自由な出入りができるようにしている。また、手すり等の設置も利用者の障害にならないように工夫している。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部研修会開催やケア会議等で身体拘束廃止や高齢者虐待防止について話し合い、正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法をしっかりと理解させるよう職員に徹底を図っている。管理者は虐待を見逃ごさないよう注意を払い、虐待防止を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は、研修会等を活用し、成年後見人制度について学び、制度の理解に努めている。現在のところ制度利用対象者及び必要度の高い人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用相談の段階での説明を十分に行い、契約にあたっては、家族や利用者の十分な理解を得て契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では家族代表の方にも参加していただき、十分意見を取り入れている。また、利用者や家族のとの話し合いの場を持ち、その意見が十分反映されるようケア会議等で検討している。	本人・家族等の意見や要望等を話し合う機会を設け、そこでの意見や要望等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的(月1回以上)に職員会議やケア会議をもち、さらに、毎朝のミーティングで意見を出し合い、共通認識に立っている。	全体会議やケア会議等を通じて職員の意見や要望を聞く機会を設け、そこでの意見等をケア会議で話し合い、運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の増員に努め、早・遅出や夜勤帯の勤務体制の整備など、シフト体制の整備を行っている。また、処遇改善加算金を活用し、給与水準の引き上げ等も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の所内研修を実施している。また、各種研修会の参加や各種資格取得に積極的に取り組むことが出来るよう支援している。本年度は、介護福祉士実践者研修等の受講や介護支援専門員試験に挑戦している。又認知症研修会にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	町内のグループホーム等職員との交流会に参加し、同業者との交流に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に接触し、会話も持つように心がけている。不安を和らげ要望もできるだけ聞き入れながら、本人の安心を確保し不安のない落ち着いた生活が送れるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と会う機会を多く持ち、生活の様子などを細かく伝え、家族の心配や不安も取り除くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お試し利用期間を設け、体験を通しサービスの利用を家族と共に検討していくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やおやつなど職員も一緒にとり、レクリエーションや行事も一緒に楽しむよう努めている。外での野菜作りや洗濯物の整理、調理の手伝いなどもしてもらい日常に近い生活の中、支え合う関係を構築		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡ノートを活用し、また誕生会や季節の行事等の施設での生活の記録(写真を含む)を提供し、逐次利用者の様子が家族に伝わるように努めている。また、安心して施設で生活が継続できるよう協力していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物、外食のほか、地域のお祭り、花見、老人クラブの行事等にも連れて行き、施設内で引きこもりにならないようにしている。	地域の行事や老人クラブ参加、日常の散歩や買い物などで馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく交流できるよう、雰囲気づくりに努めている。利用者同士の相性なども把握し、良好な関係が構築できるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で一時的に契約解除になった場合でも、頻繁にお見舞い等にも行き、密接な関係を保っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や家族の意向、本人の希望を参考にサービス計画をたて、その推進を図っている。	一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努め、全体会議やケア会議等を通じて職員間で情報を共有して、本人本位に検討している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からこれまでの地域での生活歴や暮らし方を聞きだし、自然な形でサービス提供が出来るよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人を十分見守り、一日の過ごし方や本人の健康状態等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人の課題を見つけ出し、家族の協力を得ながら、職員会議やミーティングを通じて解決に努めると共に、現状に即した介護計画の作成と推進に努めている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や要望、ケア会議やモニタリング等を通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス状況等の支援経過や記録の申し送りにより、職員間で情報を共有し、実践に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応する、柔軟な姿勢で臨んでいる。小規模多機能施設としての長所を生かし、訪問や通所の組み合わせやレクレーション、外出等をサービスに盛り込むよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町と連携し、地域の高齢者見守り事業の実施や施設に隣接する広い土地を活用し老人クラブの協力を得ながら野菜作り又子供達を含めた盆踊り等地域と密着した活動をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の中には通院者も多くおり、かかりつけ医と十分な連携をとりながら適切な医療を受けられるよう努めている。	往診の利用や通院への送迎、日常的な健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。また受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は観察・報告・相談等看護職員と連携を取り、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は安心して治療に専念できるよう病院への見舞いや医師との情報交換を綿密に行い、早期に退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	現在のところ、身体的重度の利用者や終末期を迎える利用者はいないが、事業所では今後しっかりと体制を作っていきたいと考えている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合い、事業所ですることを十分に説明しながら指針を職員間で共有できるよう検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命講習(AEDの活用等)を受けている。マニュアルを作成し、全職員が応急対応が出来るよう訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受けながら、避難訓練の実施。また災害時マニュアルを作成し、職員会議等で避難体制を確認し、災害時等に十分対応できるようにしている。また、町内会にも災害時の後方支援についてお願いしている。	緊急時に備えて救急救命講習(AEDの使用方法)を受講している。また、消防署の協力を得ながら、年2回の避難訓練を実施している。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活歴や現状把握に努め、誇りやプライバシーの配慮を職員間で徹底している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように内部研修会を開催して、職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進んでいる利用者も多く、うまく自分の意思を伝えられない人もいますが、日常生活の中での会話、態度、表情から思いを汲み取り、自己決定が出来るよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	基本的な一日の生活のリズムはあるが、日常的な決まりごとは無く、レクリエーションへの参加や利用者間の交流も個人の希望に沿って、その人のペースで参加できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のみだしなみやおしゃれに配慮して、洋服等の買い物も支援している。定期的に理容・美容店にもきてもらうなど対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事を提供する中で、利用者と職員と一緒に食事の準備をし、食事をとり、あと片付けも行うよ努めている。また、利用者の嗜好を把握し、手づくり寿司やパンバイキングなども定期的に実施。さらに外食(回転寿司等)や外でのデザートなども提供	一人ひとりのその日の希望に沿って、回転寿司やレストランでの外食など食事が楽しみなものになるよう支援に努めている。また、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や盛り付け、おやつ作り等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給や食事量、栄養バランスに配慮した食事やおやつ、湯茶等の提供に努めている。また、おかゆやキザミ食など個々の健康状態に合わせた食事等にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、歯科通院なども支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を活用し個々の排泄パターンを把握し、利用者のサインなども見逃さないように、トイレへ誘導し、排泄の失敗がなくなるよう努めている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、声掛けや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維の摂取に心がけ、便秘の予防に取り組んでいる。また、規則的な排便習慣ができるよう誘導している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回以上の入浴を実施、本人の希望にあわせた日時や時間帯を設定しながら対応している。	週2回以上の入浴を目安に一人ひとりの希望やタイミングに合わせて柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝時間は決めていなく、個々の生活習慣を大切にしている。夜眠れない人に対しても生活リズムを整え安心して睡眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している利用者も多く、職員も一緒に病院医師の説明を受けながら、薬の目的、用法、用量を理解し服薬の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や生活力に合わせ、散歩、菜園づくり、編み物、カラオケ、かるたやゲームなど毎日の生活が楽しめるよう工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって公園、動物園、買い物、外食などにも連れて行くようにしている。また、地域の花見や行事にも参加するなど外出の支援をしている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、回転寿司やレストランでの外食など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、日帰り温泉入浴やお菓子工場見物、大型ショッピングセンターでの買い物など普段は行けないような場所でも、出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方については、自分で所持してもらい、買い物等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡や手紙の代筆、郵便物保管等の支援をこまめに対応している。新年の年賀状もみんなで作案し対応したい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には(七夕、クリスマス、お正月、節分、ひな祭り等の)季節感をもたせた装飾やテーブル、椅子、娯楽空間の設定にも配慮している。また、室温や光の取り入れ、照明等にも十分配慮し居心地よく過ごせるよう工夫していく。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間からは畑や山々が眺められ、季節感や生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、交流スペースとも広く、ひとりの時間を過ごせたり、利用者同士が集まって十分な交流ができるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は十分なスペースがあり、普段使い慣れたものを持ち込んでもらい、居心地良く過ごしてもらっている。	居室には、使い慣れた家具や寝具等を持ち込まれたり、家族等の写真が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう、ソファや椅子を配置している。また、カレンダー、写真、看板なども利用者の目に付くように設置し、季節感や日常の生活感がわかるよう配慮している。		



## 目標達成計画

事業所名 特定非営利活動法人 松沢の郷 松寿苑

作成日: 平成 29 年 10 月 18 日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	13	職員の内部・外部研修のより一層の充実	定期的に内部研修会を確保できるように計画を立案し、実行する。また外部研修にも積極的に参加する。	委員会の設置で年間計画を立て、実践できるようにフォローしていく。	1年
2	14	同業者との交流の機会の増加	より積極的な交流の実施	介護職員等集い(西十勝の輪)やケアカフェの参加	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。